

学会誌「品質工学」に、広告掲載のお願い！！

学会誌「品質工学」平成26年4月号

あなたの会社の最新技術を紹介しませんか！！

＜学会誌「品質工学」広告一手取扱広告代理店＞理工企画株式会社 担当 有福
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-6-12
電話 03-3246-1261 FAX 03-3241-2296

拝啓 貴社 益々ご隆盛のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

学会誌「品質工学」は、全会員（約1,200名）と関連会社・大学・研究機関等各方面に配布し、長期に保存され、活用されますので、貴社のPR媒体としての確であると自信を持ってお勧め出来るものです。

敬具

品質工学の目的は技術を扱う全ての部門の活動の生産性向上、すなわち技術開発や設計のスピードを大幅に高めることにあります。

技術部門における技術戦略を考える上でも欠かすことのできない工学、それが品質工学です。

技術担当者だけでなく、技術部門のマネージャや経営者の皆様においても品質工学を積極導入されることで、技術部門の生産性向上はもとより、技術経営改革に大きく貢献できると確信しています。

学会会員は、会誌「品質工学」に掲載された広告や年1回・6月に開催の研究発表会付設カタログ展示会で紹介された技術や製品、解析ソフトウェア、各種セミナー等を企業業務や研究教育に大いに利用しようとするものです。

「品質工学」は、開発・設計のための品質工学(オフライン品質工学)について解説しています。研究開発、設計に携わる方の必読書です。

- | | |
|--------------|----------------|
| ☆体力強化と技術力 | ☆ばらつきの経済評価 |
| ☆クレームをゼロにする | ☆ばらつき三要素と対応 |
| ☆製品開発力を高める | ☆動特性とSN比 |
| ☆品質と分類 | ☆パラメータ設計の考え方 |
| ☆商品開発から技術開発へ | ☆パラメータ設計の方法 |
| ☆技術開発 | ☆QEステップ(適応の要点) |

会誌「品質工学」ご案内

発行所：品質工学会 <http://www.qes.gr.jp/>

会誌：学会誌「品質工学」

発行：年6回（2月、4月、6月、8月、10月、12月の1日発行）

体裁：B5判・160頁

発行部数：2,600部

広告面の寸法：天地22cm×左右15cm

広告料金：B5判・1頁・¥65,000。－（広告面は1頁単位です。）

*メール及びデータ入稿の場合は、ポジフィルム製作費が別途かかります。

貴社のご希望月号に広告掲載が出来ます！

学会誌「品質工学」

☆品質工学会の会員の方々には、学会誌「品質工学」を年6回配布しております。

「品質工学」は品質工学会の論文集で、次のような構成となっております。

- (1)「視点」各界のリーダの方々に、品質工学の展望、品質工学に期待することなどを語っていただきます
- (2)「論説」品質工学に関する最先端の手法や考え方を論ずるページ・品質工学の創始者である田口玄一博士による、他では読めない論説も掲載。
- (3)「解説」品質工学の考え方や手法、その成り立ち、最近の動向などやさしく解説。会員の品質工学に関する理解を深めるためのページ。
- (4)「開発と研究」品質工学の手法自体の研究や手法の適用研究に関する投稿論文を掲載。
- (5)「事例研究」最先端の手法や適用方法ではなくても、あるいは一部に改善すべき部分があっても、会員にとって、十分参考になる適応事例が多くあります。そのような投稿論文を、査読委員のコメント付きで紹介。
- (6)「機能評価」技術開発に品質工学を適用するとき、その中心となる部分はその技術の基本機能は何かを検討することです。この「機能評価」のページでは、各界の技術者の方々に投稿をお願いし、基本機能の考え方を論じていただきます。
- (7)「海外動向」海外の品質工学の近況を紹介。
- (8)「グループ紹介」各地からの品質工学研究会の活動状況や、企業での品質工学の推進方法を紹介するページです。
- (9)「広場」この2ヶ月間の品質工学の動きを紹介するページです。品質工学に関する記事や出版、日本各地にある研究会の報告、品質工学会について。
- (10)「会員紹介」会員の自己紹介のページです。
- (11)「会員の声」会員から寄せられたご意見、ご感想、ご質問などが掲載されます。ご質問には、出版部会の委員、その他からの回答が示されます。

＜発行所＞品質工学会

＜学会誌「品質工学」広告一手取扱広告代理店＞理工企画株式会社 担当 有 福

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-6-12

電 話 03-3246-1261 FAX 03-3241-2296

理工企画株式会社 有 福 行 (FAX 03-3241-2296)

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-6-12 TEL 03-3246-1261 (代)

学会誌「品質工学」平成26年4月号に広告掲載申込書

貴社のご希望月号に広告掲載が出来ます！

(HP用)

(A) 平成26年4月号に普通頁・1頁(@65,000.-)掲載申込 []

(B) 普通頁・年6回・1頁(@65,000.-)掲載申込 []

(年6回広告ご掲載のため出精値引き・10%割引料金合計¥351,000.-)

(C) 普通頁・年3回・1頁(@65,000.-)掲載申込 []

(年3回広告ご掲載のため出精値引き・8%割引料金合計¥179,400.-)

(消費税は別途加算されます。)

(1) 広告掲載原稿を、メールで送信します。 []

* 送信先メールアドレス: data@rikoh-kikaku.co.jp

* 出力ゲラ(刷り見本)をFAXしてください。(FAX 03-3241-2296)

(2) 広告掲載原稿を(CD)で納入します。 []

(3) 広告は掲載しません。 []

(4) 見本誌を希望。 []

上記該当の[]に、○印をご記入下さい。

*** 平成26年4月号の広告原稿締切日は・・・平成26年3月14日(金)**

(貴社名)

(ご担当名)

(TEL)

(FAX)

(E-mail)

「品質工学について」

品質工学とは評価の学問であり、予測の学問です。

そのためには、測ることが重要なことですが、これまでのように品質を測るのではなく、“もの”のものの働きというものを測ることを考えるものです。

このところが解かりにくいのですが、そのためにこれまでとは異なった、様々な測定をしなくてはなりません。

そのために、あらゆる計測器、試験機、分析機器が必要になり、さらにこのような機器自体が適切かどうかまでも評価します。

たとえば、精密工学では加工精度を求めるために、寸法を測りますが、我々は電力とか切削した重量を測ります。このために多くの人々が電力計の情報を求めています。

さらに、デジカメとかスキャナーを使ってパターン情報を解析しますから、画像に関係する機器も分野に入ります。

良いものを作るかどうかは加工機が重要ですし、さらにいえば加工機の良さも評価します。また、その時の材料の評価も重要です。

設計ともなれば、いわゆるソフトというものが大きな役割です。

この様に、いわゆる製品とか商品でなく、それを作るための道具、素材についての情報を会員が強く求めています。

「世界に広がる品質工学」

品質工学は、日本では1980年代にその価値が認識され、その後各分野の技術者、研究者に支持され、発展してきました。

今日では、機械、電気、化学、農学、薬学、医学など幅広い分野に応用され大きな成果を上げています。

1993年に学会組織としての「品質工学フォーラム」を設立、1996年11月には学術団体として登録され、1998年から「品質工学会」に改称し、普及・推進を図っています。

アメリカでは品質工学に対する評価は日本以上に高く、“タグチメソッド”と呼ばれ、1990年代のアメリカの技術停滞を打ち破るのに大きく貢献したと言われています。1997年には、田口博士はアメリカの自動車工業界への貢献が認められ、自動車殿堂入りを果たしました。

一部の大学ではタグチセンターが設立され、品質工学の研究が進められています。

また、QS9000にはタグチメソッドの活用が言及されています。

アジアでは韓国、中国を中心に急速に普及してきていますし、ヨーロッパでも一部の企業で導入されて成果を上げており、今や品質工学はこれからの技術開発の方法論として世界に認められる存在になってきています。

現在、品質工学会では、品質工学による機能性評価の方法を、JIS規格、ISO規格にしていこうとする活動を、日本規格協会と連携をとって進めています。

学会運営組織

品質工学会は、会長1名、副会長2名のもとに、多くの役員と部会委員によって運営しています。事業は、下記の5つの部会と11の委員会で進めています。

部会および委員会

部会名	概要	
事業部会	研究発表大会、企業交流会、経営者懇談会などの研究集会を企画、実施します。 また、品質工学のISO/JIS規格提案に向けた活動を、日本規格協会と連携を取って進めています。	
	研究発表大会実行委員会	研究発表大会の企画、運営を行う実動グループです。
	RQES2010企画委員会	技術戦略研究発表大会の企画を行う委員会です。
出版部会	主に、学会誌「品質工学」、その他の出版物の企画・編集・出版を行います。	
	編集委員会	学会誌の編集を行う委員会です。
	技術委員会	品質工学の新たな技術研究活動を行う委員会です。
	経営研究委員会	経営と品質工学について研究する委員会です。
	学校研究会	品質工学による技術者教育を研究する委員会です。
	地震予知MTシステム研究委員会	MTシステムを活用した地震予知研究の委員会です。
	MTシステム応用研究委員会	MTシステムの応用研究を行う委員会です。
広報部会	品質工学と当学会に関する普及・広報活動を企画し、実施します。 公式ホームページの運営、品質工学相談員（地方公設試験場技術者委嘱）による普及・広報活動も行っています。	
	インターネット運営委員会	学会公式ホームページの制作、維持、管理を行う実動グループです。
	品質工学相談員	各地域の企業や学校のために、公設試にて品質工学の技術相談を受け付ける窓口を担っています。
審査部会	学会誌への投稿論文の審査を行います。 研究発表大会における「発表賞」、学会誌における「論文賞」の選定などを行います。	

	品質工学を組織的、戦略的に導入し、成果を上げている企業を表彰する「田口賞」の審査を行います。	
庶務部会	予算の編成と管理、会員の管理、総会の運営、役員会の運営、その他の庶務を担当します。	
	規格委員会	品質工学会規格の企画検討を行います。

QES Annual Conference

品質工学研究発表大会

第22回品質工学研究発表大会 (QES2014)

開催案内

日 時：

2014年6月26日(木)～27日(金)

場 所：

[品川区立総合区民会館 『きゅりあん』](#)

(東京都品川区東大井 5-18-1)

TEL：03-5479-4100

参加費(予定)：

品質工学会員 10,000円(一般会員), 3,000円(学生会員)

非会員 20,000円(一般), 6,500円(学生)

主 催：

品質工学会

協 賛(依頼予定)：

(公社)計測自動制御学会, (公社)精密工学会, (財)先端加工機械技術振興協会, 中部品質管理協会, (一社)電気学会, 日刊工業新聞, (一社)日本画像学会, (一社)日本機械学会, (一財)日本規格協会, (一社)日本合成樹脂技術協会, (公社)日本設計工学会, (一社)プラスチック成形加工学会

[QES2014 発表申込方法の詳細については、こちらをご覧ください。](#)

- [研究発表大会 発表事例](#)
- [精密測定技術振興財団 品質工学賞発表賞 授賞研究](#)
- [研究発表大会実行委員長賞 授賞研究](#)
- [品質工学会 会長賞 授賞研究](#)
- [研究発表大会論文集 バックナンバー入手方法](#)